

こんにちは！てらい動物病院です。診療ではお伝えしきれない動物達の健康管理や生活アドバイスなどを発信したいと考え、このたび“てらい動物病院通信”を作成しました。不定期ですが、様々な情報をお伝えしたいと思いますので、お読みいただくと嬉しく思います。



そのシャンプー 動物達に適切ですか？

市販のシャンプーと薬用シャンプーのちがい

皆様はどの様なシャンプーをお使いですか？

ペットショップやインターネットで売られている市販のシャンプーの多くは、“**被毛をきれいにすること**”を目的としています。例えば、毛艶や毛並みによいシャンプーは、毛を白くする**漂白成分**や毛を柔らかくする**柔軟剤成分**が含まれています。見た目や手触りは良くなりますが、**皮膚に負担**がかかり、皮膚が敏感な子や、シャンプーの頻度を多くすると、トラブルが起こる事があります。

薬用シャンプーは、市販のシャンプーより泡立ちが悪い場合が多いですが、使用感よりも**皮膚の改善**を目的としているためです。継続的に使用する事で、毛穴の汚れを取り除き、薬用成分を浸透させることで皮膚をよりよい状態に改善し、皮膚病の予防に役立ちます。

	薬用 シャンプー	市販 シャンプー
特徴	皮膚にいい	被毛にいい
メリット	皮膚のコンディションを改善	見た目や香りなどがよい
デメリット	泡立ちが抑えられている	皮膚に負担がある商品もありトラブル要因に

シャンプーの適切な頻度は？

シャンプーをする間隔は**2週間に1回以上**が理想的です。犬種や皮膚の状態によって適切な頻度は異なりますが、シーズーやコッカースパニエルなど皮脂が多い犬種や、皮膚病を起こし易い動物さんには、シャンプーの頻度がより多く必要になります。冬場などで皮膚のコンディションがよい場合は、シャンプーの間隔を延長して頂いても大丈夫です。

シャンプーのポイント！

気をつけて頂きたいシャンプーのポイントは、使用する**お湯の温度が適切**であること。夏場はかなり低く 25℃、冬場でも 30℃位が目安になります。皮膚にとっての理想温度は、思っているより低めを意識して下さい。ドライヤーの使用に際しても、使用前になるべくタオルで体を拭いてから、冷風で使用するか、温風でもおなじところに当て続けて、皮膚温度が熱くなり過ぎないように注意して下さい。

また皮膚病の動物達のシャンプーの仕方は、病気の状態により、さらにいくつかのポイントがありますので、それぞれの薬用シャンプーの使用方法をスタッフに御確認下さい。

診察室でよく聞く！間違っただお手入れ

代表的な間違いは、お散歩の後に手足を『**水で洗う**』という方法です。表皮はきれいになりますが、皮脂が浮き上がり毛穴の分泌物がつまり易くなります。ドライヤーでしっかり風乾しなければ、湿った状態のまま放っておくと、さらに**トラブルが起こり易**くなります。

動物達の指はいつもグーの状態なので、指と指の間に汚れがたまり、被毛があるため蒸れやすく、特に**トラブルが起きやすい部位**です。**しっかりと指の間**をシャンプーして下さい。

可能な方は足の裏だけでもバリカンをするのもオススメです！



今の時期に多い 耳の病気



お耳の中を定期的にチェックしましょう！

動物達の耳は、周囲に毛が生えていたり垂れていたりするため、暑い日や湿気が多い日は**蒸れやすく**、外耳炎を起こし易くなります。さらに、耳垢がある状態していると、耳垢を栄養として**雑菌が繁殖**して外耳炎を引き起こします。

耳の中をチェックし、皮膚をシャンプーするのと同じように、定期的に耳の中を洗浄して清潔な状態を保ちましょう！また、通気をよくする目的で、**耳の入り口に生えている毛をカット**するのも効果的な予防方法です。

耳の皮膚はとてもデリケートなので、動物さんに合った洗浄液を使い、適切な方法で定期的に耳を洗浄して下さい。

夏場は特に外耳炎の患者様が多くなります。耳の洗浄方法について分からない事がありましたら、院長またはスタッフにお申し付け下さい！

ご注意ください！ 動物達の『熱中症』

動物達は皮膚で汗をかくことができません！

人は汗をかいて体温調節をしますが、動物達はパンティングという過呼吸を行って、**舌からの気化熱で体温を下げます**。お散歩後の「ハアハアハア」という息づかいは熱を下げる為の体温調節の行動なのです。



気温と湿度に気をつけて下さい！

気温が上昇するとこのような動作が見られますが、「湿度」も一緒に管理して下さい。湿度が高いと「ハアハアハア」と舌から熱を放出しようとしても、**湿度が舌からの気化熱を抑え込んでしまい**、熱が発散されません。

この状態でいると、**熱が動物達の体内にこもり**、**熱中症**をおこしてしまうのです！熱中症は気温が高なくても、湿度が高いと起こりますので、**湿度管理**もしっかりお願いします。

熱中症かな？と思われた場合

まずワキの下や内股など**皮膚の薄い場所に**、**冷たいタオル**などをあて応急処置をしましょう。この時に間違えて、氷を体全体にかけたりすると、低体温や循環不全をおこしてさらに状態が悪くなることもありますので、ご注意ください。

そして、**何より先に病院に連絡をして、すぐ病院にお越しください！**

とにかく熱中症にさせないことが大切！

熱中症になると、体温が異常に高くなり脱水します。血液が濃くドロドロになる事により循環不全が起こり、熱中症の症状が改善した後も、凝固した血液が詰まり肝臓・腎臓に後遺症が残る場合もあります。

また、実は熱中症の動物さんは、真夏の8月より、蒸し暑くなり始めた6・7月や少し涼しくなった9・10月といった、飼い主様が「大丈夫かな!？」と気を許された時に多くみられますので、まだまだ注意が必要です。

何より熱中症にならないよう、動物達の様子をよく見てあげて下さい！



てらい動物病院 TEL:0742-52-1515